

令和6年産 大崎稲作情報 第7号

令和6年7月22日発行
宮城県米づくり推進大崎地方本部
大崎農業改良普及センター
TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910
<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

今後の管理のポイント

- ・ 出穂期が早まる見込みです。遅れずに適期管理をしましょう。
- ・ 葉いもち予防剤の効果が低下してくる時期ですので、ほ場を見回り、病斑を確認したら直ちに防除しましょう。
- ・ 斑点米カメムシ類は発生が早く、発生量が多い見込みですので、注意しましょう。

1 気象経過

6月第2半旬以降、高温傾向が続いています。6月第5半旬以降は降雨が増加しましたが、降水量は6月第5半旬と7月第2半旬を除き、平年より少ない状態が続いています。

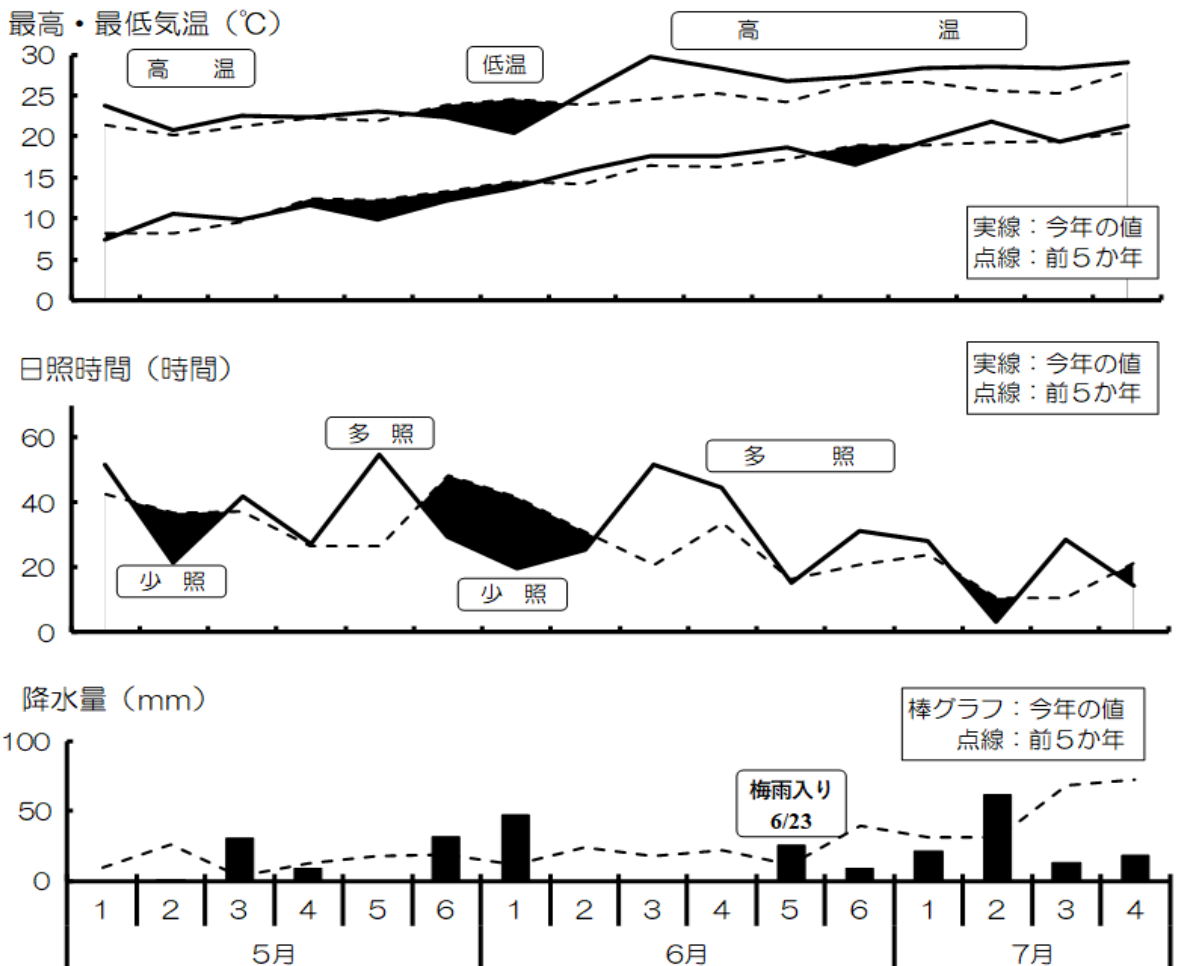


図1 5～7月の気象 (古川アメダス) ※前5か年平均値との比較。7月第4半旬は暫定値。

2 生育概況 (7月19日現在)

6月第2半旬以降の高温により、生育は、前回調査時よりも、さらに早まっています。草丈及び茎数は平年並、葉数は多くなっています。葉色はほ場間差が大きくなっています。5月連休移植の中生品種は減数分裂期に達しました。

4月上旬播種の乾田直播「ササニシキ」でも減数分裂期に達しました。他の直播栽培ほ場も、まもなく減数分裂期に達する見込みです。

表1 生育調査結果

品種名	地区名	田植日 播種日	草丈 (cm) (平年比)	茎数 (本/m) (平年比)	葉数 (枚) (平年差)	葉色 (SPAD) (平年差)	幼穂長 (mm) (平年差)	幼穂形成 始 期 (平年差)	減 数 分裂期 (平年差)	備考
※ひとめぼれ	大崎市三本木	5月3日 (-1)	79.1 (102%)	552 (110%)	12.3 (+0.5)	35.8 (-1.2)	122.8 (+32.5)	7/4 (-1)	7/15 (-1)	
※ひとめぼれ	加美町小野田	5月18日 (+1)	76.8 (103%)	502 (102%)	13.4 (+1.6)	48.0 (+8.2)	11.4 (-11.2)	7/11 (0)		
※ササニシキ	大崎市古川	5月6日 (-2)	77.2 (103%)	501 (96%)	12.3 (+0.1)	41.2 (+3.5)	98.5 (+45.0)	7/5 (-5)	7/16 (-5)	
※つや姫	色麻町四竈	5月4日 (0)	77.4 (103%)	429 (78%)	13.2 (+1.4)	32.3 (-4.0)	155.8 (+150.4)	7/5 (-10)		前4年比・差
※だて正夢	大崎市三本木	5月9日 (-1)	80.8 (103%)	383 (94%)	13.0 (+0.8)	38.2 (+2.9)	45.3 (-6.0)	7/8 (-1)	7/18 (-2)	
ひとめぼれ (湛水直播)	加美町米泉	5月4日 (0)	75.2 (111%)	671 (129%)	12.6 (+2.4)	40.3 (+3.6)	6.0 (+3.1)	7/14 (-5)		
ササニシキ (乾田直播)	大崎市古川	4月2日 (-)	76.0 (-)	581 (-)	11.2 (-)	37.3 (-)	42.0 (-)	7/8 (-)	7/18 (-)	新規、前年乾直 条間30cm
ひとめぼれ (乾田直播)	大崎市古川	4月19日 (-)	72.2 (-)	603 (-)	12.5 (-)	39.0 (-)	10.2 (-)	7/12 (-)		新規、大豆後 条間24cm
平均(移植栽培) (平年値のあるほ場のみ)		5月8日 (-1)	78.3 (103%)	474 (96%)	12.8 (+0.9)	39.1 (+1.9)	86.8 (+42.1)	7/6 (-3.4)		

※平年比・差は前5か年(令和元~5年)の平均値との比較。「つや姫」は前4か年(令和2~5年)の平均値との比較。

表2 生育ステージ予測

田植時期	田植始期	田植盛期	田植終期	7/21現在、7/22以降はアメダス前11年平均値で予測。今後、高温で推移する場合は、予測よりも早まる場合がある。
	4月28日	5月9日	5月18日	
幼穂形成始期	6月27日	7月4日	7月10日	
減数分裂期	7月7日	7月12日	7月19日	
出穂期	始期 7月21日	最盛期 7月26日	終期 8月1日	
平年(前5年)との差	4日早い	3日早い	1日早い	

※対象品種は「ひとめぼれ」、「ササニシキ」

3 追肥

基肥の窒素肥効が無くなり、籾数の不足や登熟不良が予測される場合は追肥によって生育調整を図りましょう。

～ 近年の品質低下(白未熟粒の発生)について ～

近年は穂揃期の葉色低下や高温登熟により、白未熟粒等が発生し品質低下することが多くなりました。葉色の急激な低下(窒素栄養の不足)を防ぐため、適切な追肥を検討しましょう。

●追肥の主な効果

追肥は白未熟粒の発生軽減や光合成能力の向上等の共通した効果に加え、施用時期によっても異なる効果が現れます。

表3 追肥の主な効果・影響（◎：効果高い、○：効果あり、×悪影響あり）

		穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏	玄米タンパク質の増加
施用時期	幼穂形成期	○	◎	○		×	
	減数分裂期		○	◎	◎		
	穂揃期				○		×

●追肥の目安（施用時期・施用量）

品種によって施用時期・施用量が異なります。施用時期と葉色を判断し、適量を施用しましょう。「だて正夢」の幼穂形成期までの生育量が少ない場合は、幼穂形成期・減数分裂期にそれぞれ「窒素成分 1.0kg/10a」ずつ追肥することで、適正籾数の確保に努めましょう。

表4 追肥の目安

品種名	幼穂形成期（幼穂長:1~2mm） 出穂25~20日前		減数分裂期（幼穂長:30~120mm） 出穂15~10日前	
	施用量 (N成分/10a)	葉色（SPAD値）	施用量 (N成分/10a)	葉色（SPAD値）
ひとめぼれ	1.0kg	38~40	1.0kg	35~37
ササニシキ	—	—	1.0~1.5kg	32~34
つや姫	2.0kg	35~37	—	—
だて正夢	—	—	2.0kg	37~39
金のいぶき	1.0kg	33~35	1.0kg	30~32
まなむすめ	2.0kg	35~37	—	—

4 病害虫防除 出穂予想に基づいて適期に実施

●7月15、18日に、古川アメダスで葉いもちの感染好適条件が出現しています。

- ほ場をよく見回り、発病が見られた場合は直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。
- 7月中旬以降は予防剤の効果が低下し始めるとともに、追肥で葉色が濃くなり、葉いもちが感染しやすい環境となるので特に注意しましょう。
- 上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源になります。穂いもち予防のため水面施用剤を施用する場合は、使用時期を失しないように注意しましょう。ただし、葉いもちの発生が確認された場合は、水面施用剤施用前に茎葉散布剤を散布しましょう。



●紋枯病は、前年に多発したほ場では防除を徹底しましょう。

●稲こうじ病は、窒素過多で発生が助長されるので追肥の際は注意しましょう。

●斑点米カメムシ類について、病害虫防除所より注意報（7月19日付）が出されています。発生は早く、発生量は多い見込みです。斑点米カメムシ類の薬剤防除は穂揃期とその7~10日後の2回防除が基本です。多発の原因となるイヌホタルイやノビエが残草したほ場では、1回目の殺虫剤散布を出穂始期~穂揃期に早めましょう。

表4 主な病害虫の防除方法、防除時期の目安

病害虫	防除方法	防除時期の目安	30日前	20日前	15日前	10日前	5日前	出穂期	穂ぞろい期	穂ぞろい期 10日後	
いもち病	葉いもち	茎葉散布剤	発生が確認されたら直ちに散布						防除時期		
	穂いもち	水面施用剤	出穂30～5日前まで						防除時期		
紋枯病	茎葉散布剤	穂ばらみ期～出穂期							防除時期		
	水面施用剤	穂ばらみ期							防除時期		
稲こうじ病	水面施用剤	出穂20～10日前まで							防除時期		
斑点米カメムシ類	畦畔の草刈り	出穂期10日前まで	草刈り時期								
	殺虫剤×2	穂ぞろい期とその7～10日後							1回目		2回目

5 出穂前後の水管理

(1) 基本的な水管理

【中干し → 間断かんがい（穂ばらみ期） → 浅水（出穂・開花期） → 間断かんがい（登熟期）】

・中干しは、遅くとも幼穂形成期前に終了する。

・根腐れが発生しやすい水田や倒伏の危険性のある水田は、有効茎を確保する頃から落水期まで、飽水管理により、根の健全化と茎の充実を図る。なお、**用水不足が心配される地域では、以下の「宮城県米づくり推進本部からのお知らせ」を参考にしてください。**

(2) 低温時の水管理

・幼穂形成期から減数分裂期にかけて日平均気温 20℃以下、または日最低気温 17℃以下が続く場合は、早急に深水管理を行う。

(3) 出穂後高温時の水管理

○走水等により土壌を常に湿潤状態に保つ飽水管理

出穂後の水管理を飽水管理で維持することによって、昼間深水・夜間落水管理ほどの効果は得られないが、湛水管理に比べれば乳白粒や胴割粒の発生が軽減できる。

○昼間深水・夜間落水管理 ※**用水の確保が難しい場合にはできません**

晴天等の高温時において昼間はできるだけ深水管理とし、夜間は逆に落水管理とする水管理方法である。一日の用水温の推移を見ると、気温よりも数時間遅れて水温の低下が見られるので午前9～10時頃にかんがいし、気温が用水温を下回り始める午後4時頃に落水する方法です。

○異常高温・乾燥が予想される場合の対策

フェーン現象などによる異常高温と乾燥の影響で、稲体から水分が急激に蒸散し、稲体の消耗が大きくなります。**水田に水が入っていない状態で、異常高温・乾燥に遭遇すると品質が大きく低下します。**異常高温が予想される場合は、該当日が湛水状態となるようにしましょう。

★★★★宮城県米づくり推進本部※からのお知らせ（7/11 臨時情報第1号）★★★★

※県と関係団体で組織する「宮城米の評価向上及び市場が求める米づくり」を推進する組織です。

○ 県内各地のダムでは、平年よりも貯水量が少ない状態が続いており、今後1か月の降水量が平年を下回った場合、8月に十分な農業用水が確保できなくなる可能性が高まっています。

